



校長挨拶

久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から80年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的とした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、1964年に、中学校卒業後の5年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第3期校として、本校は設立されて現在に至っています。1966年3月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は1万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、5年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の5学科を配しており、そこでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行なっています。その後続く2年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の2専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。また専攻科では、今年度から九州大学工学部と連携した教育プログラムコースが開設されました。このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）も与えられます。



久留米工業高等専門学校
校長 松村 晶

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員をあげて取り組んでいます。本科生の約6割は卒業後に就職して社会で活躍をします。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約40倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約4割は本校専攻科かあるいは九州大学や東京工業大学等の大学3年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年100倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのため本校は、久留米市内の大学等の5つ高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、大学、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を演ずるとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的にお応えしています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の抱負

久留米高専の抱負

機械工学科 1年 平野 克

親元から離れ寮に入ってから2か月がたった。そのわずかな2か月の間には寮の友達、学校の友達、先生方などたくさんの新しい出会いが久留米高専にあった。1年生全体で行われた合宿研修も終わりクラス内での絆も生まれつつある。テスト期間にはお互いで教えあったり、学びあったりしている生徒もいて心地よい雰囲気を作られている。また、友達の得意なところ、苦手なことなどもわかってきたという状況にも変わってきた。その中で私はこの学校で大きく2つのことを大切にしようと思う。

1つ目は、多くの人と関わり、人とのつながりを作っていくことだ。関わりを持つと社会に出るよりも前に様々な人がいてそれぞれが違った考えを持っているのだと知ることができる。また、人と関わることで、必然的にコミュニケーション能力が向上し、将来生きていくうえで大きな力となると思う。気軽に話せる人は誰からも好かれ、また信頼される。そんな人になるため私は、まず「クラスのすべての人と気軽に楽しく話せるように。」を目標として人とのつながりを作っていきたいと思っている。

2つ目は、自己管理を行い健康で充実した生活をおくることだ。寮は起床時間、就寝時間にある程度規制があるものの、自由度がかなり高い。勉強に関しては全く規制がない。つまり、だらけすぎると健康な生活はおろか勉強にもついていけなくなってしまう。従って、私は寝る時間や起きる時間はしっかり決め、勉強時間も設けるようにしている。私は自分で決めた守らなければいけない時間を守れるように、努力していきたいと考えている。

私は、久留米高専機械工学科1年の学級委員としてクラス内からつながりをもちクラスを良い雰囲気でも包み、寮生として健康で充実した暮らしをしたいと思う。そして、楽しい高専生活をしていきたいと考えている。

新たな高専生として

電気電子工学科 1年 田中 英視

私が高専に入って2か月が経ち、入学式が懐かしく感じるようになってきました。しかし、入学した当初は様々な心配事がありました。私はクラスに同じ中学校出身の人がおらず、無事友達ができるのか、入りたいと考えるロボコン部の先輩と仲良くできるのか、そんな心配が頭をよぎっていました。

しかし、そんな思いとは裏腹に、無事に面白い友人や先輩ができた上、部活も日々楽しむ事ができ、毎日がとても楽しいと思えるようになりました。また、高専の生活にも慣れ、休み時間にはクラスメイトとわいわい喋ったり、休み時間には外で身体を動かしたりして日々楽しく過ごしています。

そんな落ち着いてきた高専生活の中で、これからやり遂げたいこと、挑戦したいことが2つあります。

1つ目は、勉強についてです。高専では英語、理系科目を重点的に学ぶ上に、専門科目を学びます。私は、理系科目は得意でも英語が壊滅的に苦手です。その上、専門科目では英語を学んでおかないと理解できないようなものや、数学の知識を理解した上での応用が必要なものもあります。そのような問題に対しては、仲間との協力や、教え合いが必要不可欠です。これからの学習を乗り切るためにも、日々の学習を欠かさず、そして友人と理解の深め合いをしていこうと思います。

2つ目は、長期休暇の使い方です。高専では中学の時よりも長期休暇が長いことが長所として挙げられます。そして長期休暇が来たときに、それをどう活用するかが特に重要です。私はその長期休暇を学習の予習や復習、また、見分を広めるために使用したいと考えています。勉学以外にも、学生限定の様々なイベントにも参加し、多くのことを吸収したいと考えています。高専の「自由」という特色を活用し、有意義な長期休暇にしたいです。

以上、2つのことを行なうことによって、これからの高専生活をより素晴らしいものにしていきたいと思っています。

新入生の抱負

悔いのないように

制御情報工学科 1年 植松 顕継

高専に入学して2か月が経ちました。入学する前は、授業についていけるか、親元を離れて寮で生活していけるか、さらには他の寮生と仲良くやっていけるかなど不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、90分授業に少しずつながら慣れてきたり、寮での生活にも慣れてきたり、そして他の寮生とも仲良くやっていけており安心していきます。そして現在、「もう」前期中間試験が終わったんだ、あつという間だったなという気持ちでいっぱいです。私が中学生時代に思い描いていた5年間は中学校よりも長いため、高専ではとても長い期間学び続けられるのだらうとイメージしていましたが、案外そうでもないのではないかと思います。

そのため、高専生活では第一に「時間を大事にすること」を心がけます。具体的には、私はよく、休日などの自由な時間にゲームをしたり、YouTubeを見たり、のんびりと過ごしていますが、その「自由な時間」を「貴重な時間」だと考え、もっと授業の復習・予習をするなどして有意義な時間を過ごしたいと思います。

2つ目に「クラスメイトや先輩と交流すること」を心がけます。私のクラスメイトには同じ中学校出身の学生がいなかったため、新たな出会いに対する喜びを噛み締めながら、積極的に交流したいと思います。私のクラスメイトにはフレンドリーで面白い学生がたくさんいて、楽しく教室で過ごせています。そして、中学生時代にはあまり先輩と交流できなかったため、部活動や学校行事に参加するなどして高専生活では上下関係を築いていけたらと思います。

3つ目に「健康に気をつけること」を心がけます。寮では自立の意も込めて生活しているので、自分で欲しいものや飲食するものを買ったり体調管理に気をつけたりします。一度学校を欠席すると授業についていけなくなるため、過度にお菓子やジュースを買って不健康な生活を送らないようにしたり、体調管理を怠らないようにしたりします。

これからの5年間悔いのない、充実した時間を過ごしたいです。

知りあいXへ

生物応用化学科 1年 利根 遼真

古くからの親友たちや、玄関で出迎えてくれる家族と、一時的ではあるものの別れ、郷里の大分県を旅立ち、私はこの久留米高専に参りました。

3年前に私は出身小学校の校区外にある中学校に入学しました。当時の私には他の小学校出身の友達はいません。入学当初は非常に心細かったことを覚えています。転入に近い状態、外様状態だったわけです。小学校では友達とお喋りやグラウンドで遊ぶことが好きでした。その6年間で積み上げてきた対人関係の多くを手放し、やり直すことを迫られたのです。毎日真っ直ぐな一本道を寄り道せずに登下校していました。廊下を歩く時の私は静けさそのものでした。給食も毎日人知れず早く食べ終わっていました。親から心配された時期がありました。それでも、少しずつ親切なクラスメイトが話しかけてくれたり、自分から隣の席の人に話しかけてみたりしました。しだいに私はクラスに馴染むことができ、今も親交が続く親友が何人かできました。私は中学校で一度外様になったことで、新しい友人と出会う面白さと不思議さを知りました。

もし、出身小学校の校区内の、小学校からの友人が多くいる中学校に入学していたなら、中学校で出会った新しい友人とは、どこかの道ですれ違って、まるで互いを認識できないままだったのです。そして私は全く違う人生を過ごしていたのです。この高専にも未知を恐れて入学しなかったかもしれません。そういったことがあり得たかもしれないと考えると、何となく面白いです。そして今度は出身校の校区外どころか、県外の学校への進学です。しかしもう心細くありません。人と人が出会うことは面白いのです。

私の新1年生としての抱負は、多くの知り合いを作ることです。私の将来の夢は生物学者になり、人の若返り、不老不死を実現することです。ずいぶん馬鹿げた夢なのは自他ともに認めています。一人ではとても辿り着けません。信頼し合える、助け合える仲間が必要なのです。

私の奇妙な夢を肯定して、郷里の人々は私を送り出してくれました。信頼してこの高専に送り出してくれた人々のためにも、私は勉強に励み、新しい友と手を組み、自分の目標の実現に必要なものを積み上げていかなければならないのです。

新入生の抱負

楽しく有意義な高専生活に

材料システム工学科1年 横井 旭

人生の大きな節目である受験を乗り越え、高専に入学してからもう2か月がたちました。やはり最初は期待と不安の気持ちでいっぱいの状態からのスタートでしたが、クラスメイトや部活動の先輩などたくさんの人との出会いを通して学校に来ることが楽しみになってきました。それでも常に不安と期待の気持ちがまじりあう高専生活、その中で頑張っていきたいことは大きく2つあります。

やはり1つ目は勉強です。高専にはレベルの高い学生が集まっていますし、研究を行っている先生方が集まっています。私自身中学校の頃からあまり勉強に対して熱心に取り組めませんでした。高専では勉強をする時間、共に勉強を教えあえる人がたくさんいます。なので、周りの人たちと切磋琢磨して、クラス全体で高めていきたいです。それに加え高専では普通高校にはない専門教科や実習・実験がたくさんあるので高専でしか学べないことも積極的に学びたい知識をつけたいと思っています。

2つ目は、色々なことに自分から挑戦してみることです。11月に行われる高専祭など、久留米高専独自の行事はもちろん、部活などにも自分から積極的に参加し、色々な経験ができたならと考えています。中学校では生徒会、部活、クラスマッチや体育会などに全力で取り組む中で人との接し方、まとめ方、人と協力することの楽しさ、面白さ、すばらしさなどの様々な大切なことを学ぶことができました。進級するにつれて学校生活は大変になってくると思うので今のうちから様々なことを楽しみながら挑戦してたくさんのことを学び、身につけ、将来のために有意義な高専生活にしたいです。

高専での生活をより楽しいものにするためには、自分一人ではなくクラスメイトや先輩などのたくさんの人と関わりあっていくことが大切だと思います。なので、そういった人との関わりも大切にしながら高専での生活を楽しんでいきたいです。

もっと実践的な学びを

機械・電気システム工学専攻1年 佐々木 耀希

本科5年間の高専生活は、つらい時もありましたが、素晴らしい仲間と高めあいながら、比較的楽しく授業や課外活動に取り組んできました。そして学問のみならず、様々な面でよい刺激を受け、とても有意義な学校生活になりました。このような経験を忘れず、専攻科では、授業や研究に取り組むだけでなく、自主学習や実践的な経験を先取りすることで専門性を高め、インターンシップなどにも積極的に参加しようと思えます。また、自己の成長にも力を入れます。自分自身の弱点や課題に正面から向き合い、それらを克服するための努力を惜しまず行います。

専攻科では、本科と比べて他学科の人たちとの関わりが多いので、様々な専門分野を学ぶ人たちの考えを吸収し、それを自分の考えと照らし合わせる機会が多くなります。このような機会は大変貴重だと考えており、この機会を逃すことなく自分の可能性を最大限に引き出すことを目指します。

私が今、一番の課題だと感じていることは、本科5年間は、定期試験の得点などでそれなりの席次を保てていましたが、研究や実験などの実践的な場面では学んだことを忘れ、実践に結び付けられないことが多くあったことです。それは、試験のためだけに勉強し高得点を取れば満足していたことや、普段からの専門的な内容への探求心が低かったことが原因です。だから専攻科では、学んだことを積極的に実践に繋げるように、自主的に学び、実験をします。それだけではなく、学んだ理論で一から自分の手で計算などを行ったりして、実践にも応用できるような知識を蓄えます。

最近ではコロナの影響も徐々に緩和され、閉鎖的な環境から解放されつつあります。だから私はこれから、もっと積極的に行動していくことで、自分の視野や思考を広げようと思えます。そして新しい仲間たちとの関わりを大切にしながら、自身の課題改善に取り組もうと思えます。

新入生の抱負

私の抱負

物質工学専攻 1年 下村 優依

私の専攻科での抱負は2つあります。1つ目は、多様な経験をすることです。今年度から「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」が始まり、私はこのプログラムの第一期生として入学しました。このプログラムでは、九州大学の研究室に1年目から配属されており、早期から最先端な研究機器を用いて研究することができます。そこで積極的に研究に取り組み、疑問に思ったことや分からないことは自ら調べ、学んでいきたいと思えます。また、研究成果を学会などの公の場で発表する機会を増やしたいです。社会に出ると人前で話すことや、自分の考えを主張することは重要になってくると思います。学会での発表を重ねることで、人前で話す能力を身に付けていきたいです。更に、海外での学会にも参加し、実践的な英語力を身に付けたいです。

2つ目は、自分が没頭できる何かを見つけることです。私は何に対しても興味が薄く、全てにおいて広く浅くこなしてきました。勉強や研究においては、嫌いではないけれど格別楽しいと思って取り組んできたわけではありません。アルバイトに関して、お金を稼ぐために働くという意識しかありませんでした。しかし最近、どうしたらお客さんが気持ちよく買い物できるかということを考えて、他の店員さんと仲良くしたいと思ったりするようになり、アルバイトが楽しいと思えるようになりました。このように、勉強や研究においても、ただこなすだけではなく、興味を持って取り組むことで楽しく行えると思います。興味を持って取り組み、自分が本当に楽しいと思える何かを見つけていきたいです。

このプログラムの第一期生となり、これからの2年間とても楽しみな一方、不安なことも多くあります。2年目は融合基礎工学科に属する九州大学の学生さんに交じって、授業を受講しますが、授業についていけるのか、また研究室には院生の先輩ばかりで、馴染めるのかという心配があります。しかし、高専連携教育プログラム第一期生の仲間と協力して、有意義な学生生活を送りたいです。

本科1年生クラス担任紹介

目標に向かって

機械工学科1年担任 一般科目(文科系)准教授 赤塚 康介



私は、中学生の頃から陸上競技を専門として活動を行ってきました。陸上競技の練習は、楽しさよりきつい事の方が多く心が折れたりさぼりたくなることも多くあります。そのような中で頑張れる支えは、「インターハイに出たい」「タイムをあと3秒縮めたい」「ライバルに負けたくない」といった目標です。これまで、高専に入学することを目標として頑張ってきた皆さんの中には、次の目標がまだ見つかっていない人も多くいると思います。高専での生活をより良いものにするためにも、新しい次の目標を見つけて下さい。小さな目標から、卒業後の大きな目標へと繋げていってほしいと思います。

新生活について

電気電子工学科1年担任 一般科目(理科系)准教授 沖田 匡聡



数学を担当している沖田です。高専の教員として9年目になり、新しいことを始めるにも、なかなか固定化した生活リズムを変えることが出来ず、やりたいことを先延ばしにすることが増えました。1年生は高専に入学して数カ月経ちますが、新生活には慣れたでしょうか。生活環境が変わったり、通学時間も増えたり、様々な変化があったのではないのでしょうか。日々の勉強量も増えて、大変だと思いますが、生活リズムを変えるには今が絶好の機会です。一度固定化した生活リズムを変えるのは大変です。5年後または、将来のなりたい自分を想像し、今のうちに高専生として生活リズムを整え、たくさんの方にチャレンジして下さい。

10代の私と今

制御情報工学科1年担任 一般科目(文科系)教授 横溝 彰彦



バスケ部に入っちは脚を痛めて退部、体育祭の応援団に入っちはギックリ腰で退団、彼女ができては自分の誕生日にフラれ、苦手な数学への対処ができないまま成績は中の下、あとはひたすら読書をした高校時代でした。今でも脚は痛いし、腰は悪いし、誕生日が来るたびに胸がチクリと痛むし、数字は嫌いだし、近眼と老眼のため読書も一苦勞。それでも、どれひとつとして「やらなければよかった」とは思いません。うまく結果は出せませんでした、その過程で、または後に振り返って学んだことがあります。今の自分は、過去の自分でできています。では、今の自分が好きかって?好きでも嫌いでもない。自分は自分です。ありのままを受け入れています。

本科1年生クラス担任紹介

身近な自然に目を向けて

生物応用化学科1年担任 一般科目（理科系）准教授 三木 弘史



久留米は自然の力を感じられるところだと思います。夏の雨や暑さ、冬は時折積雪もあります。先日は雹も降りました。水天宮本山が近くにあるのは偶然ではないのでしょうか。いっぽうで、学内や近郊ではさまざまな生き物がみられます。それぞれが懸命に生きるようすは見ていておもしろく、なにか心に響くものがあります。日々忙しく過ごしているかもしれませんが、ときにはそのようなまわりの自然に目を向けてください。科学、技術の多くが自然を注意深く観察し、学ぶことから生まれてきました。また、このさき不運にも行き詰まったとき、周囲の人々と画面のなかだけが世界のすべてだと錯覚しないためにも。

今を大切に

材料システム工学科1年担任 一般科目（理科系）准教授 黒飛 敬



はじめて久留米高専に来たときに担当した低学年の学生が専攻科を卒業するようになりました。あっという間に過ぎた高専での日々でした。ここ数年に渡り、新型コロナの蔓延や国際的な紛争、異常気象など、様々な状況に翻弄されていて、学生の皆さんも、大きな時代の波を感じているのではないのでしょうか。新入生の皆さんは中学生の頃、高専への進学のためにどんな希望を抱いていましたか。そして、入学してみてその希望はまだ見えていますか。あっという間の高専生活は、皆さんのやる気で何倍にも充実したものになります。激動の時代を経験した素晴らしい技術者になりましょう。

新任主事紹介



学生主事
龍頭 信二

共に踏みだそう、新たな一歩！

今年度より学生主事を拝命しました一般科目（文科系）の龍頭です。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。本校での経験が豊富な高橋正郎先生（一般科目（理科系））と渡邊勝宏先生（生物応用化学科）のお二人を主事補として迎え、学生生活支援係職員とともに業務に携わっていきます。

さて令和5年5月8日をもってこれまで学校生活だけでなく、日常生活にまで大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルスが2類から5類へと引き下げられることになりました。学生主事室としてはすでにAFTER コロナを意識しているいろいろな学校行事に取り組んでいます。クラス写真撮影もそうですが、その象徴としては4年ぶりの開催となりました1年生合宿研修です。研修は5類移行直前の実施となったため配慮すべき点も多く、困難を要しましたが、新入生諸君が楽しそうにクラスメイトや他クラスの学生、先輩たちと交流している姿を見ていると実施することができ、本当によかったと感じられた瞬間でした。今後も文化部発表会、高専祭等の行事が昨年までとは違った一面を見せることができるとよいと考えています。課外活動についても然りです。体育系、文化系クラブともにこれまで満身に活動ができなかった分、練習に勤しみ、成果発表の機会に積極的に参加してください。

最後に学生会の活性化を期待します。活動については中央執行委員会を中心に動くこととなりますが、議決機関となる学生大会、代議員会を積極的に活用し、皆さんの意見に力を持たせてください。「誰かがやってくれる」では何も動いてはいきません。クラス内の小さな意見でも必要であれば上位機関で審議してもらうだけの大きな価値を持ったものもあるはずです。ぜひ、一人一人が高い意識をもってよりよい学生生活が送れるよう意見を出し合ってください。そういった議論が学生間において活性化していくことを心より願っています。

新任主事紹介

寮務主事
田中 大

トレードオフではなくウィンウィンの関係を

人間が生きていく中で、誰かの快適さが誰かの不快さになる場合、これはトレードオフの関係と言えます。Aが部屋の中で大音量で音楽を聴くことに快適さを感じる一方、隣室のBがその音楽で勉強に集中できない場合などがこのトレードオフに当たります。生活する中で、誰かと誰かの関係がトレードオフになることはよくあります。しかし、なるべくトレードオフの関係にならないように（自分の行為が他人を不快にしないように）することが、「思いやり」ということではないでしょうか。

共同空間では、お互いに思いやり、遠慮しあうことで、みんなが快適に過ごせるというウィンウィンの関係が生まれます。寮内、学校内も同じことで、お互いに相手の事を尊重してこそ、誰もが快適に過ごせる空間が生まれます。寮生諸君が快適な寮生活を送れるよう、寮務主事室と寮生活支援係の教職員は、寮生会役員とともに知恵と労力を出し合っていきたいと考えていますが、寮生諸君も、寮内で寮生全員が快適に過ごせるよう、他人を思いやる心を持って下さい。

企画主事
奥山 哲也

グローバル化と起業家マインドへの取り組み

本年度より企画主事を拝命いたしました。直接お会いする機会は少ないかもしれませんが、どうぞよろしくお願いたします。私の使命は、皆さんがより充実した学生生活を送るために魅力あるイベントや活動を企画・提供していくことだと考えています。本年度の重点企画としては、グローバル化マインドを育むための海外派遣プログラムの実施や起業家マインドの育成を目指したセミナーの開催を予定しています。

グローバル化マインドですが、現代社会では異なる文化やバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーション力が重要視されています。皆さんに国際的な視野を持ち、他国や地域の学生との交流を促進する機会をより広く提供したいと考えています。異文化理解やコミュニケーション力の向上は、将来のグローバル社会で活躍するための必要不可欠なスキルです。皆さんに国際的な視野を持ってもらえる環境を提供できるよう企画・立案中です。

また、本年度は起業家マインドにも力を注ぎたいと考えています。起業家マインドとはチャレンジ精神や創造性、リーダーシップなど、起業家のような考え方やスキルを指します。将来の社会では、新しい価値を創造し、変革を起こす人材が求められます。皆さんが起業家マインドを身につけ、自らのアイデアや才能を活かして社会に貢献できる技術者になるための支援を行っていきたくと考えています。

皆さんの学生生活がより充実したものとなるために、魅力ある企画を提供できるよう努めてまいります。ぜひ積極的な参加をお願いいたします。グローバル化や起業家マインドを身近に感じる機会を通じて、皆さんの可能性を広げていきましょう。

新任教職員紹介



白井 龍馬

- 所属 一般科目（文科系）
- 職名 助教
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 横浜女学院中学校高等学校
英語科専任教諭
上智大学文学部英文学科
嘱託非常勤講師（現任）
清泉女学院中学校高等学校
外国語科非常勤講師

抱負： 私の専門はCLIL [Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習]です。これは他教科の内容や社会的なトピックを英語で対話的に学ぶことを促す授業のフレームワークです。私はこれを主に中等教育領域で実践してきました。2022年度には、前任校での取り組みがELEC文部科学大臣賞を受賞し、その取組代表者として私が表彰を受けました。このCLILを高専でも実践しておりますが、はやくも「CLILは高専にハマる」という実感をもっております。この理由については詳細な分析が必要ですが、可能性としては「体験学習的に学ぶことを好む学生が高専には多いのではないか」という仮説を持っております。高専におけるCLILの可能性について、多角的に研究・分析してまいりたいと思います。これによって、世界に羽ばたく技術者の育成に貢献したいと思っております。

趣味： スポーツ観戦です。主にバスケットボールの試合を毎日のように見ております。数年前までは「バスケットボールをプレイすること」も趣味の範疇に入っていたのですが、加齢とともにバスケットボールというハードなスポーツをプレイすることに危険性すら感じる瞬間が増え、現在はもっぱら観戦専門です。



津田 雅弘

- 所属 事務部
- 職名 事務部長
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 国立大学法人九州大学
医系学部等学術協力課長

抱負： 4月に九州大学から出向してきました津田と申します。平成29年5月～平成31年3月まで総務課長として勤務しており、再び本校にお世話になることになりました。4年ぶりに本校を拝見し、以前と比べ木々の伐採等によりスッキリとしたように感じております。

今回は、事務部長として教職員および学生の方々に少しでもお役に立てるよう精一杯努めさせていただきますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

趣味： 定年が直ぐそこに迫っていますので、「本気で趣味を作らないと」と焦っています。



吉田 敏景

- 所属 事務部
- 職名 総務課長
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 国立大学法人九州大学
人事部人事企画課課長補佐

抱負： 4月に九州大学から課長として赴任いたしました「吉田」と申します。私の前任の課長のお名前も「吉田」でしたので新鮮味？にかけるとは思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

高専で仕事をさせて頂くのは初めてになります。高校生までは佐世保高専の近くに住んでおりましたので、勝手ながら高専は身近な存在として感じておりました。

高専の学生は優秀で色々な新しい事にチャレンジをしていくイメージを持っております。その学生が少しでも過ごしやすいような環境を整え、また、教職員の方々にも働きやすい職場環境を作って行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

趣味： 犬の散歩、NetflixやYoutube等の動画鑑賞、クルマ



生駒 里絵子

- 所属 事務部
- 職名 総務課総務係長
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 有明工業高等専門学校
総務課調達管理係長

抱負： 4月に有明高専から転入して参りました、生駒と申します。

2018年度から2020年度の期間も久留米高専の総務課で仕事をしており、今回、2年ぶりに久留米高専に勤務することとなりました。とても嬉しく思っています。

この数か月は新しい業務に慣れるのに精一杯の日々で、ご迷惑おかけしてはいますが、本校の教育研究の充実に寄与できるよう、一つひとつの仕事に真摯に取り組みたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

趣味： 旅行

新任教職員紹介



梶原 健吾

- 所属 事務部
- 職名 総務課財務係 一般職員
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 国立大学法人佐賀大学
医学部経営管理課用度（病院）係

抱負： 4月より佐賀大学から転任して参りました梶原と申します。

久留米高専では財務係に配属となりまして、前職で見ないように逃げてきました「仕訳」、「賃借対照表」など、経理に関するモノが目に入らざるを得ず、知識獲得に向け、悪戦苦闘の日々を過ごしております。また、就学支援金や、学納金など、学生の皆様のお金に関するところもご担当させていただくことになっておりますので、わかりやすいご案内のご作成や、素早く漏れのないご対応ができるよう一生懸命に頑張らせていただきます。

至らぬ点が多く、何かとご不都合をおかけするかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。

趣味：映画鑑賞

温泉巡り

PCゲーム（最近はOverwatch2に夢中です）



諸田 亮

- 所属 教育研究支援センター
- 職名 技術職員
- 採用日 令和5年4月1日
- 前職 田口電機工業株式会社 技術課

抱負： 本年4月に教育研究支援センターへ配属になりました諸田と申します。前職ではめっき加工、排水処理施設の運営、分析業務、工場で使用する薬品の管理、産業廃棄物の管理等を行ってまいりました。前職の業務とは大きく異なり、教育の現場に携わることになりましたので右も左もわからず少々緊張しております。一日でも早く久留米高専の教育に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

趣味：ゲーム

野球観戦

テレビ鑑賞（バラエティ、映画、アニメ）

おいしいものを食べること



大坪 慶子

- 所属 事務部
- 職名 学生課寮生活支援係 事務補佐員
- 採用日 令和5年4月1日

抱負： この度、学生課 寮生活支援係に配属になりました、大坪慶子と申します。若干勤務3ヶ月でとても緊張しておりますが、それと同時に久留米工業高等専門学校の一員としてここにいることが本当に嬉しいです。

今日の気持ちを忘れず、誠実に仕事に励みますのでどうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

趣味：映画鑑賞

オンラインゲーム



古賀 恵

- 所属 事務部
- 職名 学生課学生生活支援係 事務補佐員
- 採用日 令和5年4月24日
- 前職 調剤薬局事務・登録販売者

抱負： 4月より学生課学生生活支援係に配属となりました古賀と申します。

私は久留米高専の制御情報工学科に在籍しておりましたので、構内を歩いているだけでとても懐かしいと感じています。前職では調剤薬局で調剤事務兼登録販売者として従事していました。事務や接客の経験はありますが、学校でのお仕事は初めてでわからないことばかりなので、皆様のお力をお借りしてしっかりと業務を覚えて参りたいと思っております。

学生生活支援係は後輩にあたる学生の皆さんと直接関わることがとても多いので、皆さんの力になれるように頑張りたいです。どうぞよろしくお願いたします。

趣味：ミュージカル鑑賞

神社巡り（御朱印集め）

学生会の取組（1年生合宿研修）

私たちの「これから」を育てる研修

機械工学科 5年 金子 采椰

4月28日から29日にかけて夜須研修が行われました。渉外局長を任せられ3年目となりましたが、昨年、一昨年はコロナウイルスに阻まれ、私が1年生の時に参加した夜須研修から丸3年間、夜須研修は行われていませんでした。夕べの集いや朝の集いで並んで、ただ先輩方や先生の話聞くだけだった私が拡声器を持って全体へ指示を出す姿を4年前の私は想像できていたでしょうか。初めての運営側として参加する夜須研修。戸惑いはありましたが、昨年、一昨年には校内研修を運営していたため、大きな不安はなく望めるだろうと考えていました。しかし、いざ準備を始めると、何もかもが分からないことだらけで苦労ばかりでした。



例年通り行おうと資料を探してみるも、4年も前の資料は中々見つからず、それならば私が1年生として参加した夜須研修を参考にして準備しようとするも4年前のことはやはりほとんど記憶にはありませんでした。たくさんの先生方や周りの他の5年生に話を聞くことでなんとか形にすることができた研修でした。

1日目はオリエンテーリングを行いました。ここで大きな問題が起こりました。集合時間になっても帰ってこない班がいたのです。先生方や学科代表の方、上級生が探しに出てくれました。その間の待ち時間をどうにか有効活用しなくてはいけないと考えた私は、しおり通りに動くにはどうしたらいいか、どの時間を削ったら大きな遅れを取り戻せるか、そこに気を取られ、遅れた1年生の子たちの気持ちを汲み取っていませんでした。戻ってきた1年生たちの顔を見ると、申し訳なさや帰ってこれて安心した顔、疲れているような顔などが伺えました。その顔を見て私は自分のことや運営のことばかりで、夜須研修で一番大事にしたかった「1年生に楽しんでもらい、クラスでの交流を深めてほしい」という目標を実現できていないことを思い知りました。その時に「運営はもちろん大事だけど、他にも大事にしないといけないこともたくさんある」と自分の中で気づけたのです。その気づきを2日目のレクリエーションでは大事にしようと臨みました。

2日目は1年生も学科代表も含め、みんなの楽しそうな顔が見れて、1日目の反省を活かしていると感じ、とても嬉しかったのを覚えています。夜須研修は1年生のためにあるように思っていたのですが、私たち運営

側の方が学ぶことが多かったように感じます。この学びは高専の教育理念である「自立の精神」につながるものであると思います。感じたこと失敗したこと嬉しかったこと、それら全部が私たちの精神につながっており、それら全てが学びであり、私たちのこれからを育てていく一部になってくれるのではないかと、そう思わせてもらった夜須研修でした。

今年は手探りが多い中での運営であったことも含めたくさんの反省点が挙げられました。来年の夜須研修は今年よりも良いものになると信じています。

